

平成十一年二月二十八日(日)

越谷市郷土研究会

第二六一回史跡めぐり

総持寺・川崎大師

を訪ねる



東海道五十三次 川崎宿の六郷渡し場の図

第二六二回史跡めぐり 総持寺・川崎大師を訪ねる

・日時 平成十一年二月二十八日(日)
 ・集合 東武線越谷駅 午前八時

往路 越谷駅——(東武線)——東武浅草駅——都営浅草駅——(都営浅草・京浜急行線)——京急鶴見駅

京急鶴見駅——総持寺(境内一巡・諸堂案内・宝物殿・昼食)——京急鶴見駅——(京急線)——川崎大師駅——
 鉄道発祥の記念碑——若宮八幡宮・金山神社——馬頭観音——明長寺——川崎大師——石観音——
 神明神社・さいの神——川崎大師駅

・コース

復路 川崎大師駅——(京浜急行・都営浅草線)——都営浅草駅——東武浅草駅——(東武線)——越谷駅

解散 予定 午後五時五十分頃
 参加費 四、〇〇〇円(交通費・資料・保険料を含む。昼食は各自持参。)
 案内 実行委員 水上 清



◆総持寺

山号は諸嶽山。末寺一万五千余を有する曹洞宗の大本山で、福井県の永平寺とならぶわが国屈指の大寺院である。

横浜市鶴見ヶ丘約十五万坪の広い境内には三門・大祖堂（本堂）・大雄宝殿（仏殿）などの大建築がある。このほか三松閣・放光堂・紫雲台・大僧堂・勅使門・大鐘楼・祥雲閣・待風館・天真閣・宝物殿など約五十棟の堂宇がたらなる。

もと、能登国鳳至郡櫛比の庄（現石川県鳳至郡門前町）にあった。

明治三十一（一八九八）年の大火で焼失したため、同四十四年本山を鶴見に移転した。

石川県側を総持寺祖院とよぶ。

●縁起

天平年間（七二九〜四八）行基が建てた真言宗諸嶽寺を、元享元（一三三二）年にその住持定賢律師が曹洞の大祖瑩山紹瑾にゆずって改宗した。

瑩山禪師は後醍醐天皇の意にかなない、同年勅額「総持寺」を、翌年に「日域無双の禅苑、曹洞出世の道場」の繪旨をうけ、曹洞宗の総本山、勅額の大道場となった。

第二世の峨山紹碩も寺門の興隆につとめた。その後、歴代の天皇より五度の繪旨を受けた。

また諸武将領主の帰依も厚く、室町時代には足利義満・同義政、能登の豪族長谷部氏などの寺領寄進がたえられる。

徳川家康も元和元（一六一五）年、千両を寄進、幕府の祈願所とした。

●三松閣

本山第一の関門で、満四年がかりで大正九年に落成した。

●三門

鉄筋では日本一の門で、昭和四十四年に建てられた。

楼上には、観音菩薩・地藏菩薩・四天王・十六羅漢が祀られている。

●勅使門

総樺唐破風造りの桃山式の建物。

●大祖堂



〔勅使門〕



〔三門〕



〔三松閣〕



〔仏殿〕



〔大祖堂〕

昭和四十年に建てられた本堂。

大祖堂とは偉大な祖師方をお祀りしているとの意味である。

高さ三十六メートル、畳千畳という大きさに圧倒される。

●仏殿

入母屋・二重屋根の総構造りで、七堂伽藍の中心の建物。

別名「大雄宝殿」という。お釈迦様、迦葉尊者、阿難尊者をお祀りしている。

●御霊殿

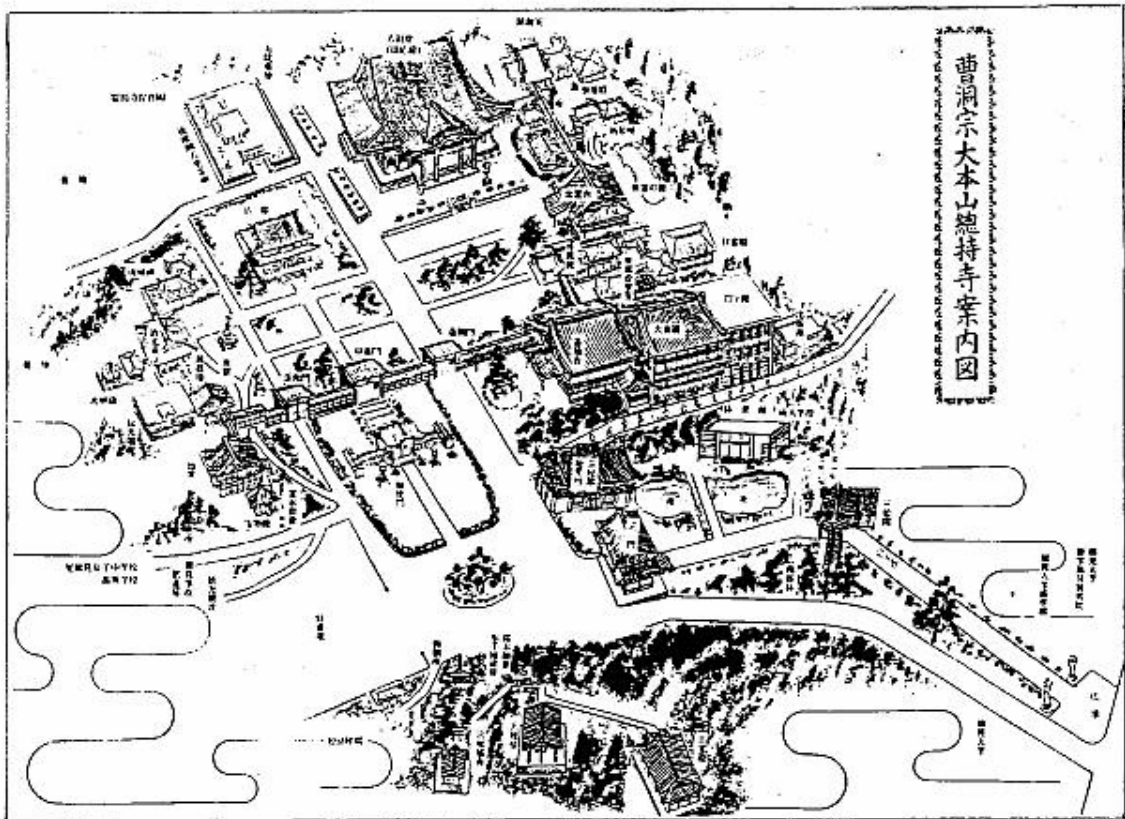
後醍醐天皇より曹洞出世の道場の繪旨をうけ、大官寺に昇格した。この因縁により、同天皇像・尊儀が奉安されている。

●文化財

中世末期から近世にかけての文書をはじめおおくの文化財がある。とくに絵画の提婆達多像、前田利家夫人像、紹瑾和尚像、刺繍の獅子吼文大法被、書跡の紹瑾筆観音堂縁起（いずれも国宝文）は有名である。

●墓所

芦田均、石原裕次郎、川上晋次郎、長谷川時雨、前田山、水原茂など著名人の墓がある。



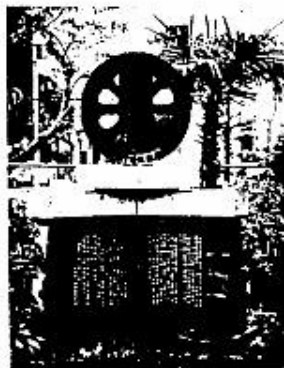
◆東海道川崎宿と川崎大師（平間寺）

川崎宿は五十三次のうち最も遅く元和九（一六二二）年に設置された。当初は負担の重さから住民の反発もあり、宿場返上を願ったこともあった。しかし、宿場の間屋・名主であった田中休愚の働きで、宝永六（一七〇九）年、幕府より六郷川（多摩川）渡船業を請け負うこととなり、その収入で宿場の財政は安定した。

川崎宿が活況を呈するのは、一般庶民の寺参りなどで往来が盛んになった、江戸後期から幕末にかけてのことであった。この繁栄の大きな要因の一つが、宿場に近い川崎大師の存在であった。家齊・家慶・家定・家茂ら歴代将軍が厄除詣りをし、寺格が高まり、関東有数の霊場となった。江戸に近いため、六郷の渡しを利用して多くの人々が集まり、参詣の拠点となる川崎宿とともに川崎大師は大いににぎわった。

しかし、明治五（一八七二）年の鉄道開通と宿場の廃止により、川崎宿の歴史は幕をおろした。また、関東大震災や空襲などで、往時の景観は全く失われてしまった。

◆鉄道発祥の記念碑



一八七二（明治五）年、新橋・横浜間に鉄道が開通し宿場が廃止されると、川崎宿は全くさびれてしまった。

しかし、川崎大師への参詣者は相変わらずおおかつた。これに注目した資本家立川勇次郎らにより大師電気鉄道会社（現、京浜急行大師線）が設立された。一八九九（明治三十二）年、東日本初の電車として営業をはじめた。

川崎大師とその門前町の発展、さらに川崎の工業化に果たした役割はおおきい。今年にはちょうど創業一〇〇年を迎える。

◆若宮八幡宮

祭神は仁徳天皇（オオササギノミコト）。大師河原の鎮守として祀られた神社で、八幡宮の祭神応神天皇の若宮仁徳天皇を祀ることから若宮八幡宮という。勧請の年月は詳らかでない。

八幡塚六郷神社（大田区東六郷にあり、鶴岡八幡宮の分霊社と伝えられる）の氏子が大師河原開

●万年屋

川崎宿のなかでも六郷川の畔にあった万年屋とその奈良茶飯は有名だった。

蜀山人大田南畝が「万年やいく万年も万年や奥の座敷の奥々でのむ」とよんでいる。

「東海道中膝栗毛」の弥次さん喜多さんも万年屋に腰をかけ、無駄口をたたきながら奈良茶飯を食べている。



川崎万年屋の店先（江戸名所図会）

拓のおり、ここに移り住み、開拓事業の守護神としてお祀りしたのがこの若宮八幡宮といわれている。

●三ノ宮卯之助の力石

境内には、次のように刻字された卯之助の力石がある。

◆金山神社（俗称かなまら様）

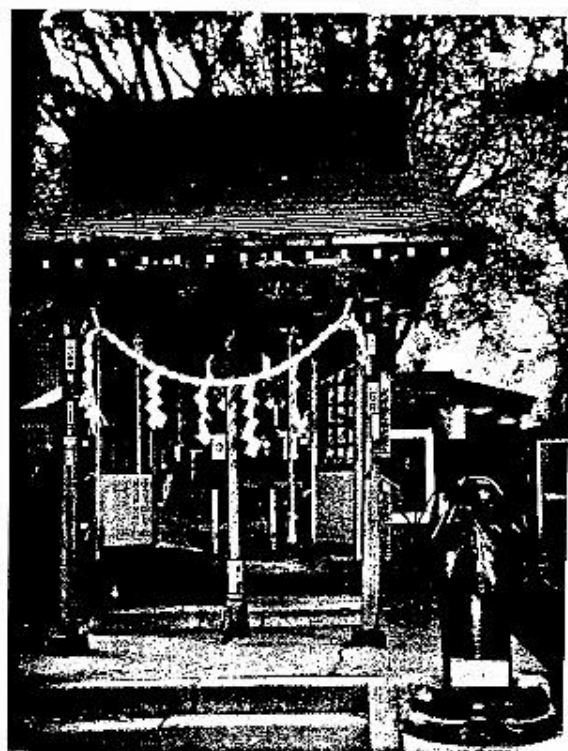
若宮八幡宮の境内社で、祭神は金山比古、金山比売の夫婦神。ご神体が鉄の男根なので「かなまら様」と呼ばれ、金属・鍛冶の守護神として有名である。

イザナミの神が火の神カグズチをお生みになり、下半身に大火傷をおったとき、この神が看病したとの伝説（古事記、日本書紀）

〔若宮八幡神社〕



〔金山神社〕



〔金山神社（かなまら様）〕

により、お産・下半身の病気の守護神といわれるようになった。江戸時代には川崎宿の遊女や飯盛女達より、お金を造る神、性病除けの神として信仰されていた。今は子授け、夫婦円満、商売繁昌、そしてエイズ除けの神とし全国からの信仰を集めている。神社にはさまざまな絵馬や子宝石も奉納されており、庶民信仰のようすを知ることができる。

●かなまら祭 四月第二日曜の例祭。松の木でつくられた大きな陽物が街をねり歩き、行列の最後には、面をかぶり身ごもった姿の「面掛け行列」がつづく。

●ふいご祭 十一月八日の例祭。各種の刃物が奉納され、工場経営者や金物商を営む人びとでにぎわう。

◆馬頭観音

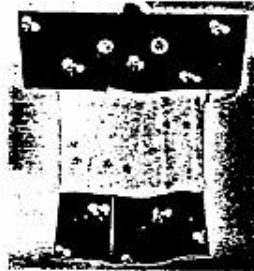
大きな馬でも手綱一本でつなぎ止めることから、「縁結びの観音様」といわれている。お堂の中の赤い布に相手の名を書いて祈れば結ばれるという。

◆明長寺



天台宗。本尊の十一面観音立像は慈覚大師円仁の作と伝えられる。創建年代は不明であるが、十六世紀初めには存在したらしい。

所蔵の葵楓葉文染分辻ケ花小袖は、安土桃山時代の作品で、染織史上の第一級品とされ、国の重要文化財に指定されている（非公開）。



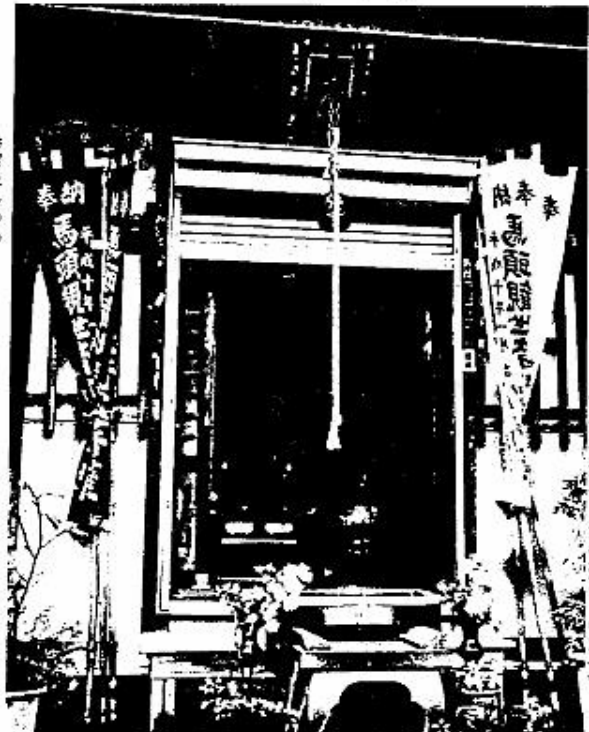
伝承によると、この小袖は萩田主馬が大阪の陣（一六一四〜一五）の功により徳川家康から拝領したもので、その子孫が寺に寄進したものといわれる。

◆川崎大師（平間寺）

真言宗智山派の大本山。金剛山金乗院と号し、一般には〈川崎大師〉（厄除大師）とよばれる。成田山新勝寺、高尾山薬王院ともに関東三山として知られる。府内八十八所の第三番霊場で、庶民信仰でにぎわう。

寺伝によると大治二（一一二七）年、平間兼乗という武士が夢のお告げをうけた。当地の海から弘法大師空海の像をひき上げ、この像を安置する寺を創建して自らの姓をとって寺号とした。開基は高野山の尊賢上人。

その後、鳥羽天皇の皇后美福門院の祈願所となり、永治元（一一四一）年、鳥羽法皇より勅願寺の一つに加えられたという。十六世紀小田原北条氏の時代には、厄除大師信仰の場としてかなり賑わったと考えられる。豊臣秀吉の小田原征伐のおり兵火にかかって焼失した。



〔馬頭観音（縁結びの神）〕

明和（一七六四〜七二）の頃、隆範の入寺により復興した。厄除祈願の信仰は、庶民のほか武士にもひろまった。

文化一〇（一八一三）年、十一代將軍家齊が公式参拝して以来、家慶・家定・家茂らも厄除詣りをし、御成門などを建立したため、寺格が高まり、関東有数の霊場となった。

境内は約三・三万mと広く、堂宇は大本堂・不動堂・大本坊・中書院・八角五重塔・鐘樓堂・自動車交通安全祈禱殿などの大伽藍をそなえる。

いづれも戦後に再建した。

●大山門

昭和五十二年、当山開創八百五十年の記念事業として建てられた。

〔大山門〕 楼上には、四天王像（京都・東寺国宝尊像を模刻造立）を安置している。

●大本堂

鉄筋コンクリート造りで、平安町の建築様式に近代的な感覺をもちこんだ大伽藍である。昭和三十九年に落成した。

●不動堂

明治二十三（一八九〇）年の創建。現在の新しい堂宇は、鉄筋コンクリート単層入母屋造り。向拝唐破風付で、昭和三十九年に落成した。

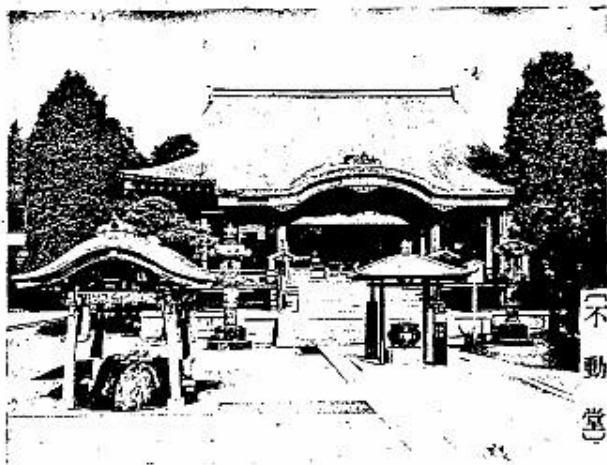
ご本尊は、成田山新勝寺ご本尊のご分躰を勧請した不動明王である。

●不動門

戦災後、いち早く有縁の地より移築された旧大山門であり、貴重な建造物として不動堂正面に移築された。

●銅鐘

「寛政七年」（一七九五）の銘があり、江戸後期の代表として国の重要美術品に認定されている。



● 碑

芭蕉や高浜虚子の句碑がある。
寛永五年の「六字名号の碑」。文盲だった江戸の紀伊国屋作内が、大師の霊夢から「南無阿弥陀仏」の筆写の教えをうけた。そして、大師参詣の途中でひろった「弘法の筆」でみごとな筆致をふるった。それを刻んだという。

「種梨遺功碑」。明治二十六年に長十郎梨を生んだ当麻辰次郎（屋号・長十郎）の功績をたたえ、大正年間に建てられた。

● 道標

境内にある「大師道の道標」。

「従是弘法大師江之道」の文字や「寛文三年」（一六六三）の年号が読みとれる。江戸時代、六郷をわたった川崎宿の江戸側の入口で、平間寺へ向かう道（大師道）の入口にあった。



〔大師道の道標〕

「是より石かんのん堂」と刻まれた貞享元（一六八四）年の道標がある。

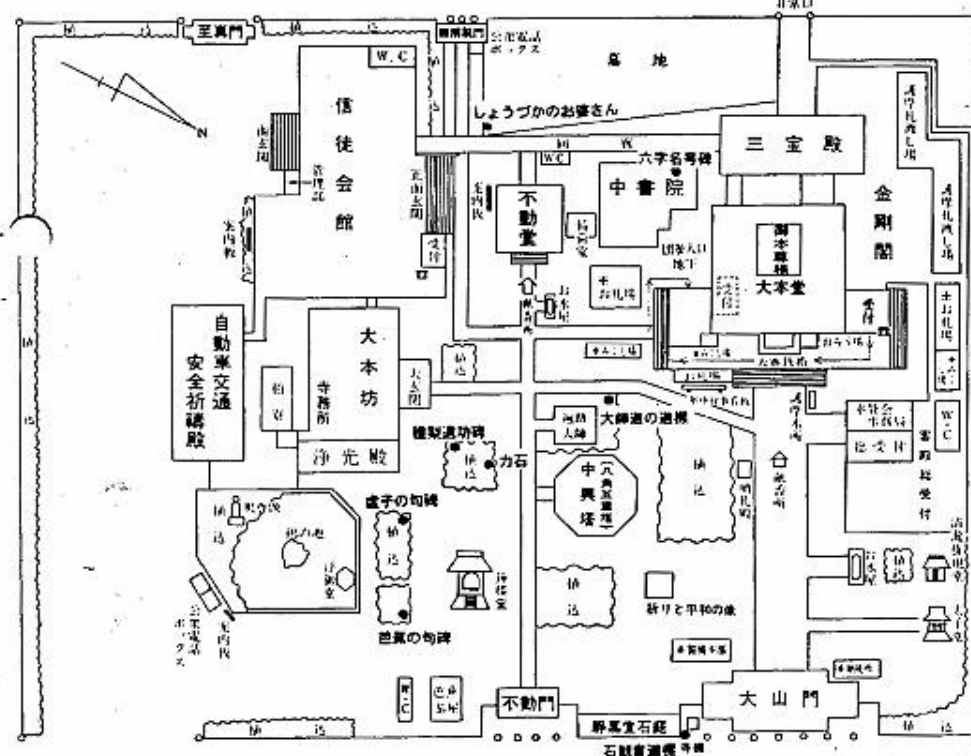
● しょうづかのおばあさん像

三途の川において、亡者を閻魔王のもとへ送るかどうかを決める奪衣婆の像。「葬頭河の婆」が訛って「しょうづかのお婆さん」になったらしい。本来、醜女で恐ろしい存在であるが、昔から容貌を美しくすると信じられている。また足・目・鼻・口などの病に悩む人びとの信仰も集めている。江戸時代には東海道を往来する飛脚も詣でたという。

「寛文十一年」（一六七一）の年号が刻まれている。

境内配置図

大本山川崎大師平間寺



平間寺 六つちがひの 夫婦づれ 江戸川柳
 (二十五才と十九才の若夫婦の厄ばらい)
 あなたもか わたしも三と 万年屋
 (女三十三才の厄年の語らい)
 江戸川柳

※印は、お正月期間のみ設置。

●三ノ宮卯之助の力石

この力石には次の刻字がある。

明治三拾八年八月十日

岩附 卯之助 指之
大師川原 石川氏
当所 四ッ家伊之助
指之

●寺宝

戦災をまぬがれた絹本着色毘沙門天像・同文殊菩薩像・同愛染明王像・同弘法大師像などが伝えられている。

◆石観音

明長寺の住職弁融べんりゆうが寛文五（一六六五）年に境外仏堂として建てたという。本尊は石造の如意輪観音。石観音は「江戸名所図会」にも紹介されており、篤い信仰を得て平間寺とともに賑わった。堂前のお線香の灰をつけるといぼが取れる「いぼ取り観音」ともいわれている。境内には石造物が多い。

●盆亀石盥盤

享保十八（一七三三）年、漁師たちが海底から亀の助けでひき上げたといわれる

●手水鉢

●梅動独吟万句詠草塚

宝暦八（一七五八）年、川崎の俳人花鳥庵梅動が柿本人麻呂像捧物のため、矢

数独吟（一定時間内にできるだけ多くの句を詠む）を興行、十二時間で一万句を

詠んだ記念碑。

●石観音六人一句碑

延享四（一七四七）年、俳人茗荷坊なまがらぼうの門人六

名が一句ずつ観音にちなんだ句を詠んで献じ

たもので、県内最古の句碑といわれる。

◆神明神社

祭神は天照皇大神。南北朝時代、南朝方の山伏が持ってきた金幣を祀ったといういい伝えがある。

建武二（一三三五）年創建、その後六回再建した。

現社は昭和三年に建てたもので、典型的な神殿造りの社殿。太陽神で農業の守護神。



〔石観音堂〕「江戸名所図会」



〔石観音堂（いぼ取り）〕



〔しょうづかのお婆さん（美人・健脚に）〕

●さいの神

神明神社の境内社で、祭神は「さいの神」と白衣観音。延宝七（一六七九）年、川中島村民により建立された神仏混合の典型的な社。向かつて右は赤子を抱いている子育て地蔵のお姿の「さいの神」で、左側は本地仏の白衣観音。

この「さいの神」はいつ頃からか、かぜ・はやりかぜ・百日咳などにご利益があると里人の信仰を集めた。

「さいのかみ」↓「せいのかみ」↓「せきのかみ」となって咳の神になつたと思われる。

願掛けには堂の前に掛かっている麻を借りて首に巻く、なおつたら新しい麻をそえてかえす。

「さいの神」（道祖神で寒の神・歳の神・幸の神などと記す）はもともと地境・辻の神で、悪疫悪霊が村内にはいるのをふせぐ神だつたようだ。この地は、江戸時代、川中島村と大師河原村藤崎との地境にあたる。

大師周辺の

ご利益めぐり（まとめ）

- ・川崎大師・・・・・・・・・・厄除・開運
- ・しょうづかのおばあさん・・美人に・健脚に
- ・馬頭観音・・・・・・・・・・縁結び
- ・金山神社（かなまら様）・・縁結び・子授け・夫婦和合
- ・石観音・・・・・・・・・・いぼ取り
- ・歳の神・・・・・・・・・・せき止め



「さいの神（せき止め）」



〔神明神社〕

◆三ノ宮卯之助

越谷市三野宮出身の力持ち。江戸時代の見世物興行の力持ちで、江戸方の代表として大阪方の代表をやぶり、日本一になったこともあるという。小舟に牛一頭を乗せたものを持ち上げるといのが「売り物」だった。力石は持ち上げて力自慢を競うための石で、記念に名前を刻んで神社に奉納することがある。

三ノ宮卯之助 年譜

〔西 歴〕	〔年月日〕	〔年令〕
一八〇七	文化四丁卯年	
一八二九	文政十二年	22
一八三〇	文政十三年三月 文政十三年七月	23
一八三一	天保二年四月吉日 天保二年四月十五日	24
一八三三	天保四年六月	26
一八三六	天保七年六月吉日	29
一八三八	天保九年四月吉日	31
一八四八	嘉永元年三月 この頃	41
一八四九	嘉永二年	42
一八五二	嘉永五年二月	45
一八五四	嘉永七年七月八日	48

岩槻藩領三野宮村（現越谷市三野宮二三五）に生まれる
越谷瓦曾根最勝院にて江戸本口久蔵と力石七十メ余を持つ
岩槻飯塚神社にて江戸本口久蔵と力石を持つ
岩槻鉤上神明神社にて雲龍石を持つ
木更津観蔵寺にて力石五十五貫余を江戸本口久蔵と持つ
越ヶ谷久伊豆神社にて力石五拾貫目を持つ
横浜綱島諏訪神社にて「池谷石」「飯田石」「さし石」「さし石」を大木戸仙太郎と持つ
十一代將軍・家齊公の前で「力持ち」の芸を披露した。「御上覧力持番付表」では最高位の大関に位置す



三野宮卯之助の興行図巻

卯之助「江戸力持番付」で関脇に位置す
信州諏訪大社秋宮にて力石七拾貫を持つ
出身地三野宮香取神社にて「大磐石」を足にて、「三王石」「指石」を持つ
江戸では三ノ宮卯之助の「牛一頭を乗せた小舟指し」が評判高かった。
三ノ宮香取神社にて「白龍石」を持つ
桶川寿稲荷神社にて「大磐石」を持つ
三ノ宮卯之助 死亡（死亡地・埋葬地不明）

位牌

〔表〕 到利清個士 嘉永七年七月八日 不二位
〔裏〕 日本市大力持 三ノ宮卯之助 四十八歳



旧東海道川崎宿を歩く

現在、川崎宿の往路をしのぶべくもないが、六郷の渡しから横浜側の入口まで案内板が設置されており、万年屋や本陣の跡、寺院などをたどって旧東海道を歩くことができる。

川崎宿は、六郷川(多摩川)側より、久根崎・新宿・砂子・小土呂・の四町で構成され(約一四〇〇メートルの長さ)、

このうち新宿町に交通機関を司る門屋場・助郷会所・高札場・田中本陣など主要な施設が集中していた。

旅籠は宿内各所にあったが、とくに六郷川河畔に近い久根崎には、奈良茶飯で有名な万年屋、ハゼ料理が自

慢の新田屋、それに会津屋など茶屋・旅籠が大きな店舗をかまえ、たいへん活気を呈していた。

天保十四(一八四三)年の宿内人口は二四三三人(男一〇八〇人、女一三五三人)、家数は六四一軒

で、このうち本陣が二軒、旅籠は七十二軒を数えた。

稲毛神社は川崎宿の総鎮守。宗三寺は曹洞宗で、墓地の奥に川崎貸座敷組合が建てた遊女

供養塔がある。一行寺は浄土宗の寺で、閻魔信仰で大いに賑わった。本陣火災の際の宿

泊避難場所でもあった。

主な引用・参考資料

神奈川県歴史散歩(上)

史跡探訪 関東一〇〇選(下)

ひろば かわさき93冬号

川崎・八十神詣で(上方恵治著)

金山神社と性信仰について

(中村博彦著)

越谷出身の江戸力持

三ノ宮卯之助(高崎 力著)

総持寺資料

川崎大師平間寺資料

山川出版社

山川出版社

川崎市役所

武蔵野文化研究所

若宮八幡宮社務所

越谷市郷土研究会

総持寺出版部

平間寺寺務所

本資料の作成には当会理事・小原勘三郎氏の温かいご指導をいただきました。厚くお礼申し上げます。



江戸時代の川崎大師風景「江戸名所図会」



川崎宿大師河原真景 川崎市立中原図書館蔵